



吹田市

文化財ニュース

No.27

平成18(2006)年3月31日

〒564-0001  
吹田市岸部北4丁目10番1号  
吹田市立博物館  
TEL. (06) 6338-5500  
FAX. (06) 6338-9886  
<http://www.suita.ed.jp/hak/index.html>

## 旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)が開館！



▲旧西尾家住宅主屋

平成17(2005)年  
10月1日から、旧西尾  
家住宅(吹田文化創造  
交流館)の一般公開が  
始まりました。旧西尾  
家住宅は、近代和風建  
築として高い評価を受  
けており、今後は保存  
とともにその公開と活  
用を図っていきます。



▲オープニング式典では野点(のだて)などが行われました

## 平成17（2005）年度の主な文化財保存事業

平成17（2005）年度吹田市では、歴史的建造物の保存・活用事業として、近代和風建築として高い評価を受けている旧西尾家住宅（内本町2丁目）の整備を進め、平成17（2005）年10月1日に旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）として一般公開を始めました。



▲旧西尾家住宅計量場

旧西尾家住宅は、明治28（1895）年に棟上げされた主屋をはじめ、茶道藪内家「燕庵」の写し

である茶室「積翠庵」、武田五一の設計である離れなど、外観や構造、意匠等に優れた建造物からなります。また、西尾家は、音楽家の貴志康一、加賀蒔絵師の神戸雪汀、植物学者の牧野富太郎ら多くの文化人との関わりも深く、敷地内には牧野の指導もあったといわれる温室の土台が残っています。

今後は、建物の公開だけでなく、旧西尾家住宅にまつわる人々や文化を紹介するとともに、それらを活用した事業を行う予定です。



▲旧西尾家住宅離れ

埋蔵文化財の調査では、埋蔵文化財包蔵地及びその周辺地において、21件の確認・試掘調査と47件の立会を行いました（2月末現在）。内本町2丁目で行った都呂須遺跡の確認調査では、中世以前のものとみられる土師器や須恵器、白磁等の破片とともにピット（小穴）を確認することができました。



▲山田伊射奈岐神社

この他の文化財保存事業として、文化財調査として、大阪府文化財愛護推進委員や吹田郷土史研究会、市民の方々に依頼して、市内のため池の所在確認調査を行うとともに、大阪工業大学名誉教授青山賢信氏をはじめ、東野良平氏・和田康由氏に依頼して、山田伊射奈岐神社および千里山住宅地や民家について建築調査を実施しました。

平成17（2005）年8月6日から9月4日にかけては、博物館におきまして「吹田市発掘調査成果展－みつかったよ！吹田の歴史－」を開催し、平成16（2004）年度に実施した垂水遺跡第26次調査をはじめ、これまで博物館内で整理を進めてきた榎坂遺跡や（財）大阪府文化財センターが調査を行った吹田操車場遺跡の出土資料などを展示しました。

また、成果展にあわせて歴史講演会を開き、（財）大阪府文化財センターの秋山浩三氏に「弥生のはじまり－新しい年代観のゆくえ－」をテーマに講演していただきました。さらに、博物館文化財保護係職員による吹田市内の発掘調査の近況報告および展示解説も行いました。

この他、吹田市では、吹田市文化財保護条例によって指定および登録された文化財の保存・修理等に対して補助金を交付しています。平成17（2005）年度は、市指定有形民俗文化財である「神境町地車」の修理に対して、市登録無形民俗文化財である「山田伊射奈岐神社太鼓神輿」・「泉殿宮神楽獅子」・「権六おどり」に対して、その保存と活用を図ることを目的に補助金を交付しました。



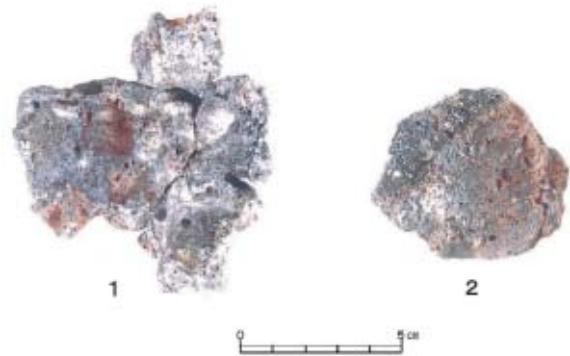
▲発掘調査成果展

## 垂水南遺跡（古墳時代）の金属器生産

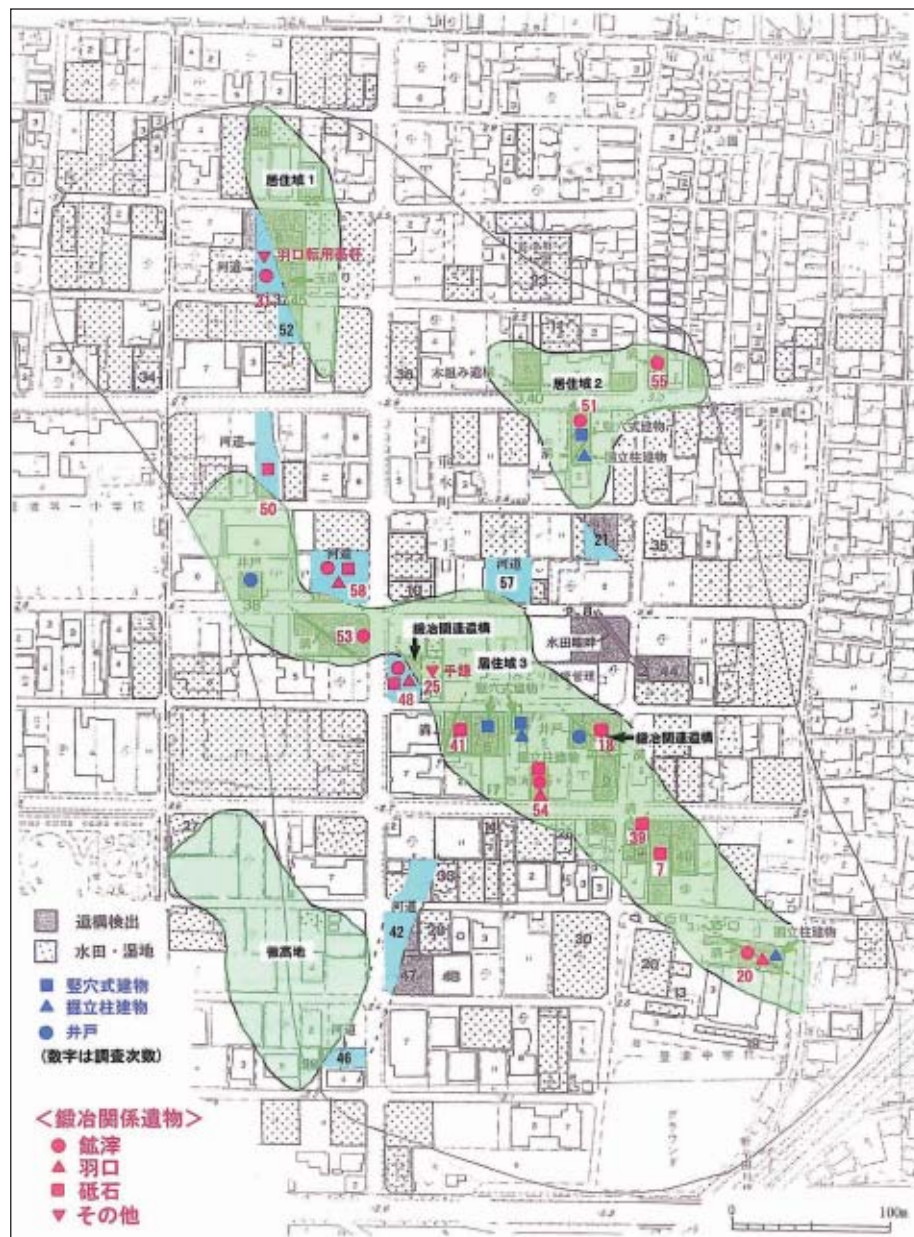
### はじめに

古墳時代の集落遺跡などの発掘調査で、一般に鉾滓と呼ばれる凹凸が多く、たくさんの穴がある石状のものがごくまれに見つかります。鉾滓とは金属器の生産に関わることができるもので、金属素材を作るため鉾石等を溶かした際に行えるものや金属素材を溶かして製品を作るまでの段階に行える滓のことで、金属器の生産は、わが国ではすでに

古く弥生時代に銅の生産が行われていたが、鉄の生産は遅れ、古墳時代中期（5世紀頃）に本格的な鍛冶生産（金属を打ちきたえて製品をつくること）が、古墳時代後期（6世紀頃）に製鉄生産（鉄原料を溶かして粗金属をつくること）が行われたと考えられています。大阪府内では柏原市、東大阪市、交野市などの古墳時代の遺跡で鉄生産に関わる遺構・遺物が顕著に見られ、府内での鉄生産の中心地と考えられます。吹田市内でも垂水南遺跡で鉾滓の出土が認められ、鉾滓の出土は金属生産を行った可



▲垂水南遺跡出土鉾滓（分析対象）



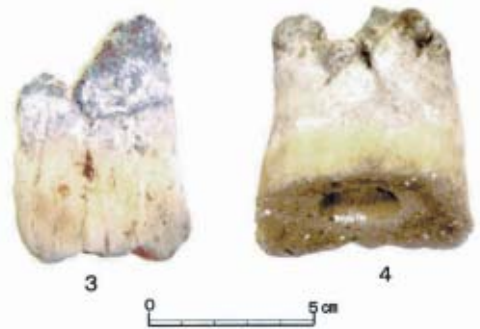
▲垂水南遺跡鍛冶関係遺物出土位置図

が高いことを示すものといえますが、これまで科学的な分析を行ったことがなく、詳しいことはよくわかっていませんでした。今回、昨年度に初めて鉾津の分析調査を行いましたので、その成果の概略を報告したいと思います。

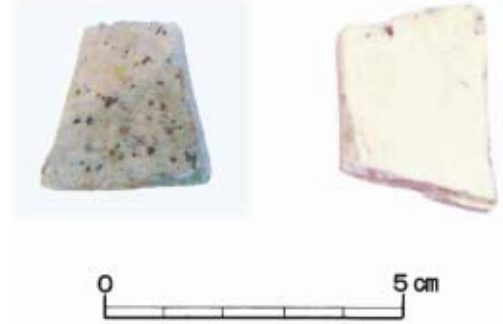
### 垂水南遺跡出土の鉾津について

垂水南遺跡は、吹田市域の南側、垂水町3丁目・江坂町1丁目に展開し、昭和41（1966）年度から行われた区画整理事業による工事の際に発見されました。これまでの調査により、弥生時代～中世期の複合遺跡であることがわかっています。なかでも中心となるのが古墳時代前期～中期の集落跡で、竪穴式建物、掘立柱建物等の建物跡、土坑、井戸、溝、河道などが検出されています。古墳時代の出土遺物には主体となる土器類の他、木製品、石製品、鉄製品など多様なものも含まれています。

垂水南遺跡の鉾津はこれまで8か所で合計63点出土しています。そのうち、比較的残りの良い第48次及び第53次調査出土の鉾津を調査の対象としました。1は第48次調査区の遺物包含層（古墳時代中期）出土の鉾津で重さ64.2gです。2は第53次調査区の遺物包含層（古墳時代中期）出土の鉾津で重さ55.0gです。いずれも暗灰色～灰色系の色調で断面形は碗形を呈し、表面にはたくさんの小さな穴があります。分析調査は鉾津の分析では数多くの業績をあげておられます九州テクニサーチ技術顧問の大澤正己氏に依頼し、肉眼観察、顕微鏡組織観察、断面硬度測定、化学組織分



▲ふいご羽口（3.第48次調査 4.第58次調査）



▲砥石（第58次調査）



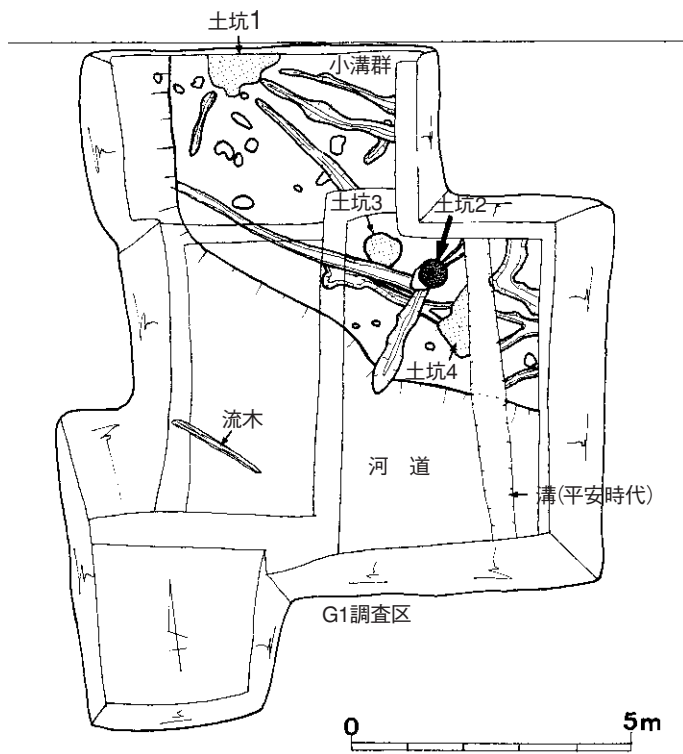
▲第48次調査検出遺構（南東から）



▲第48次調査土坑2（東から）

析等による調査を実施していただきました。その結果、分析資料2点は鉄の鉍滓で、鍛冶作業の後半段階で排出される椀形鍛冶滓であることが判明しました。

一般的に鉄製品は鉄鉍石・砂鉄等採取する第1段階、鉄鉍石等を炉の中で木炭を燃料として溶かし、粗金属をつくる製錬の第2段階、粗金属の純度を高めるため不純物を取り除く精錬の第3段階、鋼を高温に熱して鍛打しながら製品をつくる第4段階（不純物を取り除く精錬鍛冶と鉄を再度熱して製品をつくる鍛錬鍛冶に分かれる）という4つの段階を経て製造されます。今回の分析資料は2点とも第4段階の鍛錬鍛冶の鉍滓で、鉄製品の製造では最終段階のものということになります。

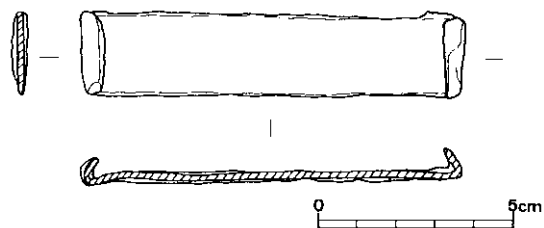


▲第48次調査検出遺構平面図

### 垂水南遺跡の鍛冶生産

今回の分析調査はわずか2点の鉍滓を対象としたにすぎず、古墳時代の鍛冶生産のほんの少しがわかったにすぎませんが、現状で考えることについて記します。

これまで取り上げてきた鉍滓の他に鍛冶生産に関連するものとしては、ふいご羽口、砥石が挙げられます。ふいご羽口とは、鍛冶炉等を高温にするためのふいご（送風装置）に付けられる土製の管のことで、炉に接する部分では高温のため、焼けただれた状態になっています。砥石は鉄製品を研磨するのに用いる石製品です。これまで垂水南遺跡では鉍滓は8か所、ふいご羽口は4か所、砥石は9か所で確認されています。その出土位置は古墳時代の居住域の推定地（居住域1・2・3）か、その隣接地に限られます。出土地点の大部分は鉍滓、ふいご羽口、砥石ともに少量の出土ですが、第48次調査区では鉍滓の出土が顕著であり、全鉍滓出土数の約78%も占めています。また、同調査区ではふいごの羽口、砥石等の遺物の他、鍛冶関連遺構と考えられる土坑（土坑2、古墳時代中期）も確認されています。この土坑は平面円形で底は浅いすりばち状を呈し、直径約60cm、深さ約10cmを測ります。上面の周縁に熱を受けた痕跡が一部認められ、中に炭を多く含んでいました。残った状況から鍛冶炉とは考えられませんが、鍛冶関連のもので同調査区か



▲第25次調査出土手鎌実測図

次数	調査年	検出遺構	出土遺物	鍛冶関係遺物(点数)				文献	備考
				鉾滓	羽口	砥石	ほか		
7	昭和53(1978)	柱穴、小土坑、溝、土器群	土師器、須恵器、紡錘車、剣形石製品、双孔円板			1		1	
18	昭和56(1981)	井戸、溝、土坑、ピット	土師器、須恵器、製塩土器、木製品			1			鍛冶関連遺構?
20	昭和56(1981)	河道、高床式建物、土器群	土師器、須恵器、製塩土器、なすび形木器、管玉、勾玉、双孔円板、石製品原石	1	2				
25	昭和58(1983)	-	土師器				手鎌		
31	昭和59(1984)	河道、土器群	土師器、須恵器、滑石製小型勾玉、白玉、白玉未製品、ガラス小玉、土錘、製塩土器、なすび形木器、ツチノコ、木匙	1		1	羽口 転用 高杯	2	
39	平成元(1989)	溝、土器群	土師器、須恵器			1			
41	平成3(1991)	溝	土師器、須恵器、滑石製勾玉、竈形土器			2			
48	平成7(1995)	土坑、溝、ピット	土師器、須恵器、製塩土器、木製品	49	7	2			鍛冶関連遺構
50	平成7(1995)	河道	土師器、須恵器、韓式系土器、製塩土器、管玉、球状土製品			1			
51	平成7(1995)	竪穴式建物、土坑、溝、ピット	土師器、須恵器	1				3	
53	平成8(1996)	ピット群、溝	土師器、須恵器、製塩土器、管玉、勾玉、白玉、ガラス小玉、ミニチュア壺	3					
54	平成9(1997)	土坑、ピット、柱穴、溝	土師器	1	3	1			
55	平成9(1997)	落ち込み、溝、土坑、柱穴	土師器、石製品(勾玉、白玉)	6				4	
58	平成14(2002)	河道、ピット群	土師器、須恵器、韓式系土器、製塩土器、土錘、棒状石製品、獣骨	1	3	4		5	
			出土点数合計	63	15	14	2		

<文献>

1. 垂水南遺跡発掘調査概報Ⅲ 1979
2. 昭和58年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報 1984
3. 平成7年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報 1996
4. 吹田市文化財ニュースNo.19 1998
5. 吹田市文化財ニュースNo.24 2003

▲垂水南遺跡鍛冶関係遺構・遺物一覧表

その間近で古墳時代中期に鍛冶生産が行われたと考えられます。また、第18次調査区でも類似する土坑が検出されています。なお、変わったものとしては羽口に転用された土師器の高杯が第31次調査区で出土しています。

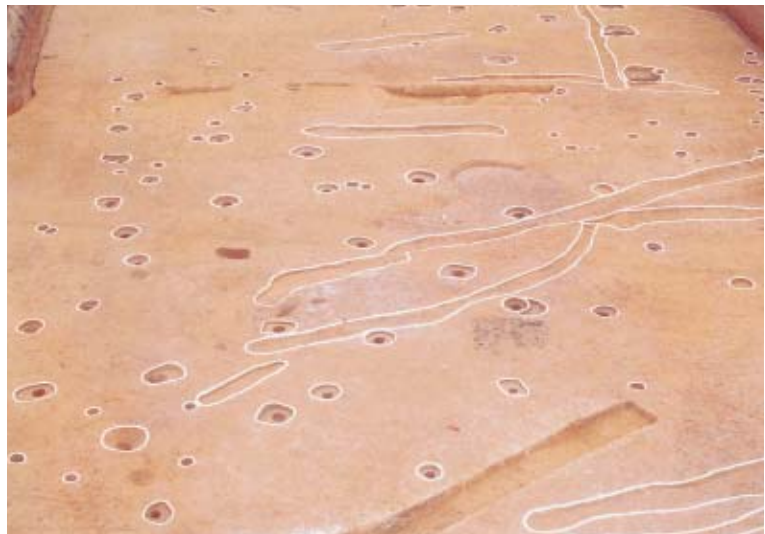
さて、鍛冶によりどのような製品が生産されたのでしょうか。鉄製品は土の中では腐食して残りにくいのでよくわかりませんが、可能性の1つとして細長い鉄の薄板の両端を短く折り曲げて作られた手鎌が第25次調査区で出土しています。

以上のように、鉾滓の分析結果と鍛冶関連遺構・遺物の発見により、古墳時代中期の垂水南遺跡では、集落内で鉄製品生産の最終段階の鍛冶生産が行われていたと考えられます。ただ、鍛冶生産の具体的な姿についてはよくわかっておらず、今後の調査の進展に期待したいと思います。

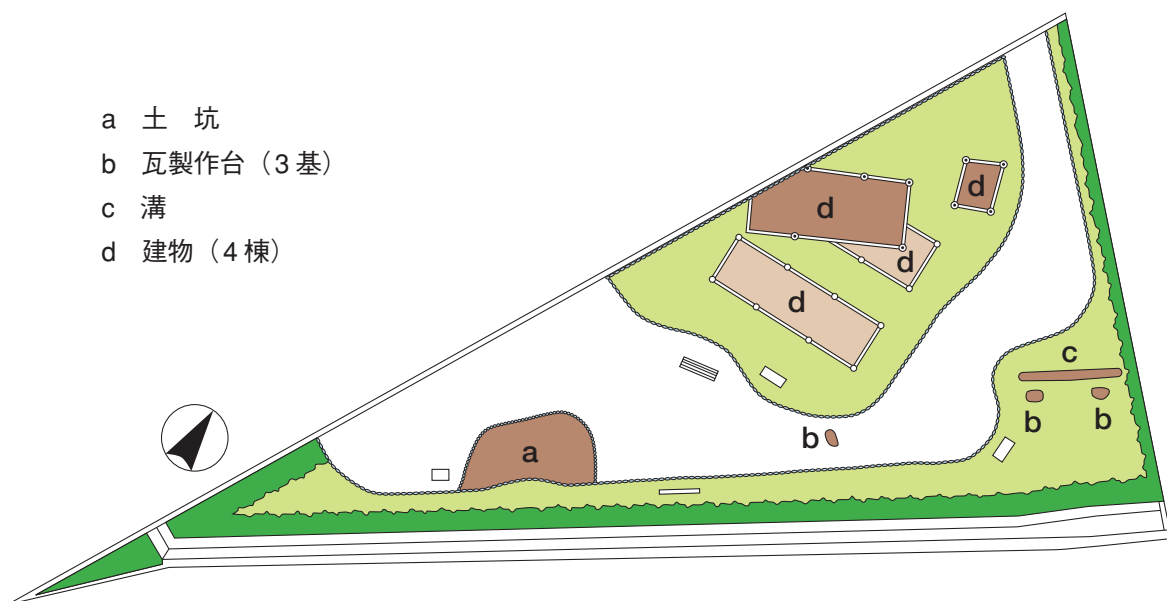
## 吉志部瓦窯跡（工房跡）の整備工事

吉志部瓦窯跡（工房跡）（岸部北4丁目）は平成3（1991）年度に発掘調査が行われ、平安時代初期の建物や瓦を製作するための回転台の軸を埋めた穴（瓦製作台）などが見つかり、瓦の生産のための施設が、作業が効率的に行われるように配置されていました。これは調査地点の北西にある、延暦13（794）年に新たに都が遷された平安京の宮殿に使用する瓦を焼いた吉志部瓦窯跡（国史跡）に伴う瓦生産の工房跡であることがわかりました。史跡吉志部瓦窯跡に伴う重要な遺跡であることから工房の中心的な建物などが見つかった場所が大阪府の史跡に指定されました。史跡内で見つかった建物、土坑、瓦製作台は保存のために埋め戻されていることから、地表に配石などでその場所や建物の大きさなどがわかるように整備すると共に説明板を置いて吉志部瓦窯操業当時の様子を解説します。

周辺には史跡吉志部瓦窯跡のほかにも奈良時代に難波宮の宮殿に使用する瓦を生産した史跡七尾瓦窯跡といった吹田市を代表する遺跡が整備されています。また、これらの遺跡のすぐ西側にある吹田市立博物館ではそれぞれの窯の実物大の模型や出土した瓦などを展示しており、より詳しい内容を知っていただくことができます。



▲吉志部瓦窯跡（工房跡）の発掘調査（西から）



- a 土坑
- b 瓦製作台（3基）
- c 溝
- d 建物（4棟）

▲整備状況